

エキッチ・アルティメイト・ボビンの使い方

特徴

このボピンは、ハウジング・ユニットとワイヤ・フレームから構成されています。ハウジング・ユニットはブラックアルマイト加工を施したアルミ製のハウジングの中に、一定の張力を持つスプリング (CFS) とクラッチ機構が収められており、真鍮製のロータリー・テーブルには小さなドライブピンが立っています。ロータリー・テーブルの中央にはOリングの入ったセンターポストがあり、ここにスプールを入れます。

操作

エキッチ・アルティメイト・ボピンは、CFS コンセプトを中心としてデザインされました。その張力はつねに 33gに設定されており、ボピンと標準的なスプールを足した重さとバランスが取れますので、タイヤーが望む位置にボピンを留めておくことができます。このCFSによりスレッドの出し入れが自由になり、一定の長さを出しておくことも、また巻き戻すことも簡単です。ボピンを持って、フックの方に近づければ巻き取り、遠ざければスレッドが出て、手を離せばボピンはその位置で止まります。このテンションは基本的なタイイングにはじゅうぶんなもので、スラックを生み出しません。もっと大きなテンションが必要な場合は手のひらでスプールをパーミングしてください。

センターポストに差し込んだスレッドのスプールは、ゴム製Oリングとの摩擦で留まっています。中心からずれた位置に立ったドライブピンは、スプールの「スポーク」に引っかかって、動きを管理します。スレッドを引き出すと、スプールは時計回りに回転して、スプリングにエネルギーを蓄えます。一回に出すことのできるスレッドの長さは 60 cmです。このぶんを出し切ると、スプリングは完全に巻き取られた状態となっており、スレッドのテンションも急に高まります。さらにタイイングを続ける場合には、スプリングのリセットが必要です。そのためには、スプールからドライブピンをいったん抜かなければなりません。

リセットは、片手で行うことができます。ラベルが貼られた側のスプールエンドを親指、人差し指、中指の3本で握り、薬指をハウジング・ユニットの下に出ているステンレスのループにかけます。3本の指でスプールをすこし浮かせると、ピンがスプールから外れてスプリングが巻き戻ります。スプールを再び押し込めば、タイイングを続けることが可能です。この操作は、スレッドをカットする前にも行います。

まずは使ってみましょう

01. Oリングに薄く給油してください。柔らかいグリースなら何でも使えます。
02. スプールから10cmほどスレッドを出してください。
03. スプールをセンターポストに差し込みます。スレッドが時計回りに巻かれてゆく向きにしてください。ユニスレッドやダンビルであれば、ラベルは上向きです。ドライブピンが、スプール・スポークの隙間にきれいに入るように注意してください。
04. ナイロンのスレッダー（付属）を使って、スレッドをチューブに通してください。
05. エキッチ・アルティメイト・ポビンは、利き手を問わず人間工学的なフィット感が生まれるようにデザインされています。親指と人差し指で真鍮のグリップを押さえ、ハウジング・ユニットは親指の付け根に押しつけてください。中指はスプリングになっているフレームに掛けましょう。薬指と小指はスプールを押さえるために使います。

使い方のコツ

スプールは、ハウジングと干渉するとスムーズな使用感が得られません。

01. 古いダンビルのスプールは、スレッドを留めておくため、外周に大きな切り込みが1つ入っています。これはハウジングに干渉しますので、突出した部分を切り取ってください。
02. 古いユニのスプールは、穴の内側にステップが付いている場合があります。フィットがきつくなりますので、Oリングをじゅうぶんに潤滑してください。
03. ハーフヒッチの仮締めは、ポビンの重さだけでじゅうぶんです。スレッドをすこし解く場合も、スラックは生じません。
04. 付属しているスレッダーはデンタルフロス用のナイロン製で、ステンレスにも当たりが柔らかくなっています。先端をライターの炎で融かしておけば、チューブを通りやすくなります。
05. ポビンのテンションと保持力を実感してください。インラインのロータリーバイスにロングシャンクのフックを固定し、スレッドを留めてみましょう。ポビンのチューブとフックシャンクの間隙がまったくない状態にして、ジョーを数回転してみてください。（もし通常型のバイスを使っていらっしゃる場合は、スレッドのスプールに小さい指を触れず、シャンクにスレッドを巻いてみましょう。）バックテイルなどの滑りやすいヘアを1本だけ、最後の1巻きの下に挟み、そのまま6回転から10回転巻いてください。ポビンから手を離し、ゆっくりとヘアを引き抜いてみて、ポビンが生み出したマテリアルの保持力を感じてください。皆さんがお使いになるすべてのスレッドで、この実験は行った方が良いと思います。ワックス付き、ワックスなしで保持力は異なってきます。とくに細いスレッドの場合、タイイングに必要なプレッシャーは、エキッチ・ポビンのテンションだけでじゅうぶんです。ソフトループを作る場合、フィニッシュノットを締め込む場合などは、薬指と小指でスプールを押さえ込みます。ポビンが持つ自動テンション機能を活用できればタイイングが速くなり、どれだけ手が不規則な動きをしても、スレッドにスラックは生まれません。